MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２４．５．２６　発行元
第 577 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

島田一男「ベスト表」(再掲)

戦後に活躍し始め、テレビ放送の開始にともなってドラマの原作として重宝された島田一男の作品。事件記者や刑事・捜査官の日常の活動を描いた短編が多い。世間の注目度はすっかり薄れてしまったが…。

私の手元に本が残っていない

今現在、私の手元に島田一男の本は数冊しか残っていない。１３０冊以上読んでいるのだけれども、どんどん古本屋に出してしまったということ。本棚の収容に限界があるので「これは残さなくてもいいや…」と判断してしまったものが多い。まあ、ミステリの歴史的価値みたいな判断とも言えると思うが。

本格ミステリとしての試みは初期の頃の作品に限られる。右の『ベスト表』で言うと『上を見るな』『錦絵殺人事件』『古墳殺人事件』などである。ただ、中期以降の作品が極端に劣るということはなく、馴染みやすく、読みやすい作品が並んでいる。雑誌の連載やノベルス初期の頃の日本ミステリの状況を知るには格好の材料である。

大文字本以外は図書館の開架書棚から消えてしまったが、閉架から捜してくれると有難い。

『埴輪の棺　縄文殺人事件』　１９８７年光風社。私が読んだのは１９９５年版の光風社文庫。科学捜査研究所の技官で特進警部の近江小四郎が探偵役を務める形のストーリー展開。

近江警部。やっと取れた休暇の日に浜松技官から電話連絡が入る。群馬県の沼田警察署からの話。宅地造成地から石の棺に納められた白骨が出てきたという。はっきりした事件の依頼でもないので、温泉に行くようなつもりで気軽に浜松技官と出掛けてみると…。案内してもらって現地に行く。そこにあった人骨は継ぎ歯をした跡があり、人体組織らしきものも少量くっついていた。「これは古代人のものではないよ。亡くなって数年の新しいものだ」ということに。弥生時代風の石の棺に見せ掛けてはあるけれども、それは…。早速殺人事件としての捜査が始まる。地元の有力者の証言を元に行方不明の人物を求めて。ここが発端になって連続殺人事件へと発展していくという流れ。

『熱海殺人広場四重殺の謎』　１９９２年徳間書店。私が読んだのは１９９５年版の徳間文庫。こちらは監察医の松平利春が探偵役。大名家の子孫で元子爵でありながら、監察医務院地下の解剖室で働いている。後期の作品の中では内容が充実していて、出来が良い。

今回は寝台特急あさかぜ２号で発生した事件。下関発東京行き。Ａ寝台個室で二人の死体が見つかった。熱海駅で切り離された客車の７号室では不動産業の久野産業の総帥の久野敏彦が青酸による服毒死。８号室では熱海の高級クラブのママである八代京子が絞殺の状態で横たわっていた。松平は遺体からわかることをできるだけたくさん集めようと活動を開始した。死亡時刻は徳山駅発の１８時１７分から広島駅着の１９時４７分までの間ではないかと推測された。一見、久野が八代の首を絞めた後、毒を飲んで自殺したように見えるのだが…。そんな時、熱海の駅前広場で別の女性の死体が発見されて、事件は複雑になる。

《島田一男作品のベスト表》

１．上を見るな
２．錦絵殺人事件
３．古墳殺人事件
４．夜の指揮者
５．その灯を消すな
６．在外捜査官
７．白樺山荘怪火事件
８．社会部記者（短）
９．刑事部屋・深夜の章（短）
１０．刑事部屋・白昼の章（短）
１１．特捜検死官（短）
１２．事件弁護士殺人調書（短）
１３．警察医（短）
１４．拳銃を磨く男
１５．特命検死官（短）
１６．科学捜査官
１７．社会部長（短）
１８．熱海殺人広場四重殺の謎
１９．伊豆熱海特命捜査官
２０．朝刊記者（短）
２１．部長刑事（短）
２２．城ヶ崎心中
２３．広域捜査官
２４．極道探偵（短）
２５．冥土の顔役
２６．婦警日誌（短）
２７．埴輪の柩
２８．女特攻捜査官
２９．国際捜査官
３０．箱根地獄谷殺人（短）
３１．自殺の部屋（短）
３２．殺意の絆
３３．熱海逢初橋殺人事件
３４．六本木捜査官
３５．誤報殺人（短）
３６．灰色の誘蛾灯（短）
３７．卑弥呼塚殺人事件
３８．零号租界
３９．夜の警視庁（短）
４０．特ダネ記者（短）
４１．死者たちの合唱
４２．赤い影の男（短）
４３．東京殺人地図（短）
４４．波の墓標
４５．特派記者（短）
４６．黒い時刻表（短）